長崎県立大学 広報誌「クローバー」

clover

2014
Vol.6

長崎県の「地(知)の拠点」として、
さらなる前進を続けています。

経済学部・国際情報学部・看護栄養学部
「研究紹介」

社会に求められる人材を
育成するために取り組んでいます
「大学改革」

OB・OG訪問レポート
先輩たちから社会を学ぼう!

長崎県立大学からのお知らせ
「NEWS LETTER」

学長
あいさつ

たゆみなく、前へ

日本には、800に近い数の大学がある。もちろん、共通する役目はあるが、一方それぞれに固有のミッションがあり、これを果たすために各大学はその特色をいかさなければならない。現在、大学に対する期待はこれまでになく大きく、言葉を変えれば大学に対する要求は厳しいともいえる。

長崎県は我が国本土の最西端に位置するという地理的特徴を有する。それ故、古代からアジア大陸とつながり、近代には唯一西洋に開かれていた。長崎市は被爆した都市であり、佐世保市は軍港という異なる顔をもつ。このような環境におかれた県立大学である本学のミッションは、ステークホルダーが求める活力ある人材を育成することはもちろん、「地（知）の拠点」として地域に貢献することである。この「地（知）の拠点」は、アジアとの交流、アジアへの広がりをポテンシャルとして有していなければならない。地域に貢献できる研究や学生の活動が、大学の活力を生み、同時に学生の成長に大いに役に立つであろう。卒業生に求められる学士力や社会人基礎力を伸ばしていくと同時に、ここ長崎ならではという教育ができるよう努力していきたい。

学長　太田 博道

Contents

学長メッセージ ―― 01

研究紹介 ―― 02

■経済学部 地域政策学科　奥山 忠裕 講師 ―― 03
佐世保港を起点とする
観光マーケティング事業調査

■国際情報学部 情報メディア学科　森田 均 教授 ―― 05
低床型路面電車運行情報等提供サービス
「ドコネ」実用化

■看護栄養学部 看護学科　吉田 恵理子 准教授 ―― 07
しまの高齢化の進む地域で生活する住民の
終末期の実態と健康関連行動に関する調査

社会に求められる人材を育成するために ―― 09
「大学改革」に取り組んでいます

OB・OG訪問レポート ―― 13
先輩たちから社会を学ぼう!

NEWS LETTER ―― 14

Research Activities

研究紹介

本学は、長崎県の県立大学として、長崎県の地域社会に役立つ事柄をテーマとした研究に数多く取り組んでいます。それらの研究は、本学の役割のひとつである地域貢献を牽引する一方、学生たちには実社会とふれあいながら多様な経験をする機会を与えてくれます。地域と学生、両方の未来につながるもの。それが本学の研究です。

経済学部

奥山 忠裕 P.03

Okuyama Tadahiro

佐世保港を起点とした新上五島町への観光客増加ために、調査を進めています。

国際情報学部

森田 均 P.05

Morita Hitoshi

長崎の路面電車が利用しやすくなるシステムを開発し、より進化させています。

看護栄養学部

吉田 恵理子 P.07

Yoshida Eriko

住み慣れた「しま」を「終(つい)の棲家(すみか)」に選択できるよう、調査・研究を重ねています。

Research Activities

経済学部

持続可能な人口の交流が「しま」を支える

本学の経済学部には、経済学科、地域政策学科、流通・経営学科の3学科があります。それぞれの研究分野は異なりますが、「長崎県の地域経済の活性化をいかにして成し遂げるか」という大きなテーマは共通です。また学科の枠を超えた協力や情報交換も活発で、より個性あふれる研究を実現させています。

地域政策学科／講師
奥山 忠裕
Okuyama Tadahiro

宮城県出身。専門分野は公共政策の分析・評価。2011年に長崎県立大学に赴任。初めて経験する九州での暮らしについては「新鮮で楽しいです」とのこと。趣味は、九州のまだ見ぬ土地をめぐるドライブです。

長崎県の“強い”経済を築くことが研究の目的です

長崎県の経済を支える産業構造について考えてみましょう。まず、大きなウエイトを占めているのは製造業で、造船・機械、電気機械、食料品、窯業などが盛んです。また、長崎県には、歴史あるスポット、各地の伝統食やご当地グルメ、独特の祭りなどの観光資源が豊富にあるため、それらを生かした観光業およびサービス業も活発に行われています。

しかし、製造業と観光業のどちらもが、不況の影響を受けやすい産業であることは否めません。

経済学部では、景気変動に耐えられる長崎県の経済についての研究を進めています。長崎県の経済を強くすることが、経済学部の研究の役割です。

新上五島町の観光を活性化させるために、情報・状況の把握を官学「協働」で行います

経済不況が続く昨今、さまざまな地域が、企業・大学の誘致、地域コミュニケーションの強化などを通じて、経済の活性化対策を行っています。なかでも、地元の観光の活性化は、最も多く地域が取り組んでいるテーマです。

観光の活性化には、地域全体での取り組みが必要です。しかし、地域の範囲は広く、個人ですべての情報・状況を把握するのは困難を極めます。よって、「新上五島町および長崎県立大学間の相互協力協定事業」として、観光についての研究を進めることとなりました。中心的に研究へ携わるのは、経済学部 地域政策学科の奥山忠裕講師、流通・経営学科の山本裕准教授です。

学生たちも参加して、佐世保港を起点とした観光客増加のための研究を開始しました

新上五島町への観光客の交通アクセスは、長崎港が6割、佐世保港が4割となっています。このことは、将来的に、長崎港を起点とした観光客数が減少した場合、新上五島町への観光客数全体が大きく落ち込む可能性を示しています。今後、「持続可能な観光による人口交流」の増加を達成するためには、長崎港からの観光客数の増加とともに、佐世保港を起点とした観光客数を増やす方策を整備しておくことが必要です。

そこで、本学が取り組んでいるのが「佐世保港を起点とする観光マーケティング事業調査」です。新上五島町と本学の相互協力協定事業として、地域政策学科の奥山講師が調査を行いました。流通・経営学科の山本准教授は、港湾関係者との連携を固めるなどサポート体制を強化しています。

平成24年度・25年度に行われた調査には学生たちも参加。佐世保港と新上五島町の港で現地調査および留め置き調査が行われました。同時に、インターネットを使った全国調査も実施しました。

調査後、収集したデータを解析した結果、観光目的で新上五島町を訪問する場合は、佐世保港の往復利用への需要があることの可能性が示唆されました。また、新上五島町の九州以外の地域での認知度は1～2割程度と高くないことも判明し、その一方で、「実際に行ってみたい」「条件が整えば行ってみたい」との回答は3割以上あり、今後、九州以外の地域への広報の重要性が認識されました。

Topics

こんなことも分かりました

新上五島町および長崎県立大学間の相互協力協定事業
佐世保港を起点とする観光マーケティング事業調査

五島列島での訪問先は?
1位…中通　2位…若松　3位…福江

新上五島町を訪れるのは?
1位…長崎県民　2位…福岡県民
3位…佐賀県民・神奈川県民　5位…埼玉県民

新上五島町の名勝地で知っているのは?
1位…マリンピア展望公園
2位…龍観山展望台　3位…若松大橋

新上五島町のおみやげもので知っているのは?
1位…あご(飛び魚)
2位…五島うどん　3位…かんころ餅

調査結果は離島の「持続可能な人口交流」を実現できる政策に生かしていきます

そもそも、なぜ新上五島町との相互協力協定事業に至ったのかを奥山講師にお聞きしたところ、「新上五島町は、本学の経済学部がある佐世保市と人口交流があります。また、住民の方々が、人口交流の減少を肌で感じていらっしゃることも重要と捉えました」とのことです。住民の方々は漁業の衰退とともに新上五島町を訪れる人々が減少したこと、若者の島外への流出などの問題を気にされています。

今後、この調査・研究は、新上五島町はもちろん、長崎の離島エリアの「持続可能な人口交流」を実現できる政策に、いかされていきます。

さらに、一歩進んだ研究として、災害発生時の離島の交通・航路をどうやって整備しておくのかも、今後、検証されていく予定です。

奥山講師は「長崎県には、数多くの美しい『しま』が存在し、そこに暮らしが営まれ、生活に密着した航路が存在しています。これは全国的に見ると、めずらしいことです。実際、私が育った東北には、海こそあれ、人が暮らす『しま』はほとんどありません。長崎の「船を使って仕事先に行くこと」を新鮮に感じたほどです」と語ります。加えて、新上五島町は、キリシタン文化などの歴史と古くからのコミュニティの存在が見てとれるエリアです。そのような文化や背景を持つ「しま」は、日本全国においても大変貴重な存在だと言えます。奥山講師は「この魅力を全国へ広めたい。住民のみなさんが多くの人から注目されることにより、自分の『しま』の重要性に気づき、離島で暮らす誇りをより強く持ってくださることが本望です」と調査への決意を新たにしています。

佐世保港および、新上五島町の有川港、奈良尾港などのフェリー乗場で現地調査を実施。学生たちも参加しました。

奥山ゼミの学生は「しま」での調査を経験して成長できました

(左より)奥山ゼミの岩永悠貴さん、毛利真実さん、竹井晴菜さん。

奥山ゼミの学生たちは、平成25年8月、3日間にわたり、新上五島町に滞在し、各地の港で現地調査を行いました。

参加したメンバーは「港で、航路利用者の方に声をかけて、アンケートに答えていただくのが大変でした。最初は緊張して上手に声がかけられませんでした」。「『しま』の方はとても協力的で、調査をしている私たちはとても助かりましたし、奥山先生も驚かれていました」と振り返りました。その協力体制の素晴らしさからは、住民の方々の問題意識の高さをはっきりと感じられました。また、初めての土地で、初めての人々とふれあうことは、キャンパスではできない経験です。「しま」での活動を通して学生たちはたくましく成長できたと実感していました。

Research Activities

国際情報学部

情報メディアを活用して すべてのひとにやさしい移動手段を

国際情報学部においては、国際化・情報化社会の中で生まれたさまざまな課題に対して、多方向からの研究を行っています。今回、紹介する情報メディア学科では、行政はもちろん企業と連携した研究を活発に行っています。

情報メディア学科／教授
森田　均
Morita Hitoshi

神奈川県出身。長崎市LRTナビゲーション推進協議会会長。「ドコネ」のほか「長崎EV&ITS（エビッツ）」などに携わる文系出身の工学博士です。専門分野はメディア論、ITS（高度交通システム）。

離島から長崎市中心部までの交通システムを考えます

五島列島に計140台の電気自動車（EV）をレンタカーとして導入し、ITS[※1]端末（高機能カーナビ）で観光ルートや急速充電器の位置情報などを提供する「長崎EV&ITS（エビッツ）」。森田均教授は、平成21年に始まったこのプロジェクトの理事として、観光情報プラットホームの構築を担当しました。

平成23年度からは、長崎市LRT[※2]ナビゲーション推進協議会の会長として、国土交通省の支援事業にも採択された「ドコネ」のサービス開発も手がけています。

低床電車の位置情報を配信し、みんなが便利を享受する地域へ

「ドコネ」では、長崎市内を走る路面電車のうち5台の低床電車の位置情報を配信。今まで路面電車を利用したくてもハードルが高いように感じていた高齢者や障がい者のみなさんに、よろこばれています。またベビーカーを使用するお母さんからも「公共交通機関で出かけやすくなった」と好評です。今後はバリアフリーや観光に関する情報も随時追加して、長崎県民へ、観光客へ、より広がりのある情報を発信していく予定です。

※1／ITS（高度交通システム）
※2／次世代型路面電車システムの略称

NAGASAKI LRT NAVIGATOR
ドコネ?

「ドコネ」という名前は、長崎弁に由来しています

低床電車が「どこにいるの?」を長崎弁で言うと「どこね?」。これがネーミングの由来です。また、ドコネのロゴには、路面電車の軌道がつながる様子とハテナマークを組み込みました。

NAGASAKI LRT NAVIGATOR

ドコネ?

低床型路面電車の位置情報に まちを楽しむ機能をプラス

“ドコネ”とは「低床型路面電車運行情報等提供サービス」です。長崎の路面電車のうち、5台の低床電車が今、どこにいるか? をパソコン・ケータイ・スマートフォンで調べられます。

ケータイ

文字情報で低床車両の位置と行き先を配信しています。支援を必要とされる方は、乗車意思を運転士に伝えることができます。

パソコン

地図上に低床車両のアイコンが表示されるので、現在位置や行き先を視覚的に把握できます。加えて、電停周辺のバリアフリー経路や観光情報も参照可能です。

スマートフォン

上記に加え、スマートフォンを風景にかざすと、自分の周辺にある電停や観光施設などの情報が表示され、どんなスポットが近くにあるのか感覚的に確認できます。また、現在地からそれらの施設への行き方案内も可能です。

乗車意志を運転士へ伝達できます

乗車の際、支援を必要とされる方は、ケータイ・スマートフォンから乗車意志を運転士に伝えられます。乗車意志は、運転席の端末に自動で表示され、黄色い画面が乗客の方々にもアピールします。

ドコネ協議会には産学官のさまざまな人々が関わっています

長崎市LRTナビゲーション推進協議会(ドコネ協議会)の構成員は次のようになっています。ゼミの卒業生も活躍中です。

[ドコネ協議会]長崎県立大学、長崎電気軌道株式会社、扇精光株式会社、長崎市建設局まちなか事業推進室、長崎県産業労働部グリーンニューディール推進室、国交省九州地方整備局長崎河川国道事務所

世界60か国以上の国から参加する「第20回 ITS世界会議東京2013」に出展

「ITS世界会議」は、ITS(高度交通システム)に関する世界的な規模のイベントです。平成25年は10月15日〜18日に東京ビッグサイトで開催され、700の出展ブースに、世界から8,000人が参加しました。森田教授も「ドコネ」を世界デビューさせるために出展しました。本学と地域の企業や自治体が一体となって取り組む「ドコネ」はITS世界会議のコンセプトに合致しており、長崎の路面電車による地域(ローカル)ITSを世界規模(グローバル)な会議でまさしくグローカルに発信する絶好の機会だと考えたからです。当日は、長崎の路面電車からインターネット経由で東京会場の大型モニタへライブ映像伝送を行い、学生たちが「ドコネ」を実際に使いながら説明して長崎の観光名所も紹介。数多くの参加者の注目を集めました。

長崎の路面電車車内から東京ビッグサイトへのライブ中継を終えて学長と談笑するゼミの学生たち。

Research Activities

看護栄養学部

“長崎方式”の看護はアジアでも役立つはず

長崎県は、日本の中でも突出して「しま」が多いという特性を持っています。

そこで、看護栄養学部では、看護や栄養の分野において、長崎らしい“長崎方式”の健康対策を構築しようと、調査・研究を進めています。また開学以来、学生たちも「しま」を訪れ、「しま」をフィールドとした学びに積極的に取り組んでいます。

看護学科／准教授
吉田 恵理子
Yoshida Eriko

長崎県出身。好きな言葉は「吾唯知足[※1]」。専門分野は成人看護学（慢性疾患や終末期看護）です。また、看護学だけでなく、福祉の分野の博士課程にも進み「エイジング・イン・プレイス」をテーマに研究を重ねています。

※1／「われ ただ たるを しる」と読みます。足ることを知る人は不平不満がなく、今の自分を大切に心豊かな生活が送れるという意味です。

「しま」の限界集落[※2]すべてで住民の意識調査をしました

看護学科の吉田恵理子准教授を中心としたプロジェクトチームで、平成23年度から3年間「しまの高齢化の進む地域で生活する住民の終末期の実態と健康関連行動に関する調査」を行っています。便利ではない離島をなぜ「終の棲家（ついのすみか）」に選ぶのか。また、ひとにとって、生きる、死ぬとはどういうことなのか。それが調査・研究のはじまりでした。調査は新上五島町・五島市の全限界集落で行われ、約40%の住民から回答を得ました。

※2／65歳以上が人口の50%以上を占める集落。高齢化により、社会的共同体の機能維持が困難になりつつある集落。

長崎県の「しま」での看護はアジアでの看護にも役立ちます

新上五島町では、調査結果をもとに行政、医療機関、住民の「しま」全体で考えていきたいとの意向から、シンポジウムを開催しました。当日は、幅広い世代から200人以上が参加し、発表や意見交換がありました。

この研究は、本学が積極的に交流を図り、また長崎県同様に島が多いアジア諸国での看護にも反映できます。グローバルな視点においても、「しま」の看護を研究することは、本学が果たす役割だと言えるでしょう。

Column

今「しま」に必要なのは有機的なつながりです

「しま」での看護は、都市部のような縦割りのシステムではうまくいきません。行政、医療機関、住民などが個々に奮闘するのではなく、それぞれがつながり、協働する必要があります。その何かを生みだす有機的なつながりとなる中間的な立場が、研究・教育機関である本学であると考えています。

Project
「しま」と一緒に考える

新上五島町におけるシンポジウム

新上五島町から発信!!
住み慣れた地域を終の棲家とするために

平成25年9月7日(土)／新上五島町鯨賓館ホールにて

「終の棲家」にふさわしいまちづくりの視点にまでつなげます

最初に、本学から「しまの高齢化の進む地域で生活する住民の終末期の実態と健康関連行動に関する調査」の調査結果報告が行われました。その後、下記のシンポジストそれぞれの立場から「住み慣れた地域を『終の棲家』とするために私たちができること」についての意見発表がありました。これらには、看護だけでなく、住民を巻き込んだ、まちづくりの視点を取り入れています。在宅看護や「しま」特有の医療についてのほか、「終の棲家」であるためには、どのような「しま」であるべきか、若い世代への教育や住民への健康づくり対策、住民同士の交流の場も必要なのではないかなど、多様な意見を交換しました。

集落を回る送迎バスも用意され、新上五島町の高校生も多数参加しました。看護についてはもちろん、若いうちから健康について考える大切な機会になりました。

シンポジウムは、本学と新上五島町が共同で主催しました。本学が中立的な立場で発信することで、住民のみなさんも「情報」として受け取りやすくなったと感じています。

本学からは太田学長や、吉田准教授を中心とした「長崎県立大学『終の棲家』を考える研究プロジェクトチーム」が参加。シンポジウムの前に、調査報告を行いました。

Symposiast

シンポジストが語った「終の棲家」とは?

それぞれの立場から、それぞれの想いが交差する内容になりました。

上五島病院 院長

八坂 貴宏 氏

住み慣れた地域を「終の棲家」とするために

新上五島町で、町民が亡くなられている場所は、医療機関70%、自宅10%、介護福祉施設15%です。高齢者本人が「終の棲家」に自宅を希望しても、家族の負担や急変時の対応への不安から、それがかなえられない状況があります。地域で在宅医療を支える意識や資源、適切な施設での看取り体制の整備が必要ということです。

「終の棲家」を選ぶということは、自分の生き方を選ぶということです。介護が必要となる前に、日頃から自分や家族の考えをまとめて、将来の計画を立てておくことも重要です。高齢者の方が介護や医療を必要とするようになっても、地域と関わり、自分の意思で生活の場を選べるように、私たちは施設間・職種間の連携を強化し、地域ケアを充実させていきたいと思います。

新上五島町 福祉長寿課 課長

峯脇 泉 氏

この島で生きていく

新上五島町においては、集落人口に占める65歳以上の割合が過半数を超し、将来的に共同体維持が困難になると予想される地区があります。孤独死や認知症、自助・互助活動が停滞する地区の出現など、多くの行政課題に対応しながらも、行政だけでは限界があり、地域全体で支える互助がますます重要だと考えられます。

また一方で、たとえ要介護になっても尊厳を保ち、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後までできるような、地域包括ケアを目指しています。そのために、医療機関や介護事業所はじめ、多職種関係機関の連携強化も図っています。

多少の不便はあっても、この島を「終の棲家」として、あるがままを受け入れて平穏に暮らしていける、そんな地域づくりに町民の皆様とともに取り組んでいきたいです。

住民代表 自宅での看取り経験者

七里 佐知子 氏

温かき生命に この生命に支えられて

父は救急車でICUに入り、24時間で亡くなりました。母は4年半、自宅のベッドの上で療養し、父とは全く異なる看取りとなりました。母にとって5人の孫娘、地域の方々、現代の進んだ医療・介護・福祉・行政に支えられた介護は、とても恵まれた環境であったと思います。ひとりふたりでの介護では、家庭も、体力も、精神力も持たなかったでしょう。

高齢化社会の一員は、間違いなく「明日の私」です。皆様にお世話になり、支えられて、一期の命をまっとうするほかに無しです。父と母の生き様に、命はたくさんの皆様にお世話になり、支えられての一生だと知らされました。次は私の番です。娘たちに、どのような生き様・死に様を見せるのか。今から考えていきたいです。

NPO法人ウエスレヤン・コミュニティ・カレッジ 理事長

内村 公義 氏

人生の最後をどのように生きるか

「死から逃げたりせずに、どこかの時点からは、そのものに全身をかけて、人は死に向っていく」と多くの人の死を見てきた、徳永進は述べています。遺される人々にその死に様、生き様を見せていくことが「いのちの教育」です。

住み慣れた町を「終の棲家」にするということは、いろいろな人たちとのつながりの中で、死んだ後も「生きた証」が残り、つながりが切れないということではないでしょうか。

死んだ後にも、つながりがあった人々の中に痕跡が残ることに思いを馳せ、日々の暮らしの中で特に次世代とのつながりを築いていく、そんな生き方を柳田邦男は「死後性を生きる」と呼んでいます。「いのちのバトン」を受け継いでいくことを大切にする、それが住み慣れた地域を「終の棲家」とすることであり、住民中心のまちづくりなのです。

社会に求められる人材を育成するために

大学改革！

に取り組んでいます

改革の意義

本学では、専門的かつ幅広い職業人を育成するため、大学改革を進めています。その原動力のひとつに、社会が大卒生に求める能力の「変化」があります。企業が手厚い社員教育で大卒生をゼロから育てる時代は終わり、大卒生には、以下に記したような能力が強く求められています。

これらを考慮すると、従来の「知識伝授型授業」の教育だけでは、社会に求められる人材育成は難しくなります。さらに、アジア近隣諸国の学生がよりいっそう力をつけ、日本人学生もさらなる努力が必要になっている状況も考慮しなければなりません。本学では、教員・学科・学部・大学が一丸となり、大学改革を実行し、長崎県が有する様々な特色を生かした能動的な学びを推進するなかで、長崎県立大学らしさが光り、社会から求められる人材を育成します。

今、社会が大卒生に求める能力

- 専門的な知識・スキル
- 自分の意見を持ち、伝える「発信する力」
- 課題を見つけ、計画・工夫する「考える力」
- どんな時でも前に踏み出せる「行動する力」
- 状況を把握し、議論できる「チームで働く力」

1 長崎県内大学で唯一の採択、「地（知）の拠点整備事業」スタート

平成25年度より開始された「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」は、大学と自治体が連携し、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を目的とする、文部科学省の事業です。

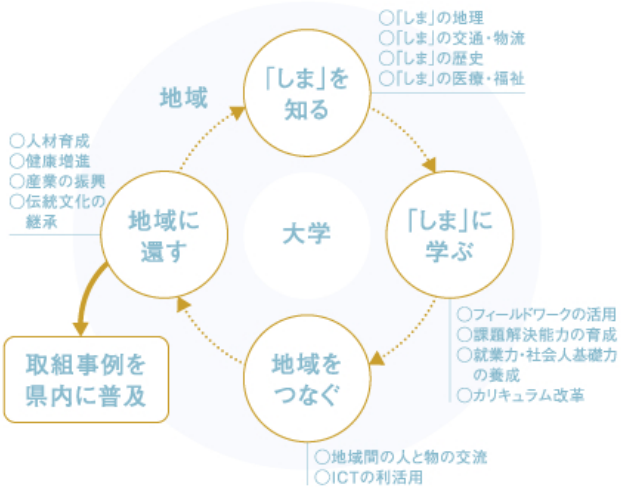
この事業に、本学は「長崎のしまに学ぶ―つながる とき・ひと・もの―」のテーマで応募し、採択されました。採択は全国52件で、長崎県内では本学のみとなります。

長崎県の「しま」は、急激な人口減少や少子高齢化による地域コミュニティの低下や基幹産業の不振、伝統・文化の衰退など、今後、日本において生じるであろう問題にいち早く直面しています。

これらの問題に、グローバルな視点で取り組み解決できるグローカル人材の育成は本学の急務です。また、本学が「しま」で学んだ成果は、地域における人材育成や産業振興を通して地域に還すとともに、地域と大学が連携して、地域の宝である「しま」を再生・創造していきます。

文部科学省 地（知）の拠点

【COCとは】Center Of Communityの略称。大学などが自治体と連携し、地域を志向した教育・研究・地域貢献を全学的に進めることへの支援で、文部科学省の事業です。これにより、大学などに人材・情報・技術が集まり、地域コミュニティの中核的存在としての機能が強化されることが、狙いとなっています。



○本学独自のプログラム「しま体験教育プログラム」を実施

島が多い長崎県の特性を生かし、また長崎県の県立大学として地域貢献するために、「しま」を第3のキャンパスとして位置づけています。学生は、事前学習を行ったうえで、フィールドワークとして一定期間「しま」を訪問し、現地での生活や人との交わりの中で、実践的な学習を積み重ねます。最終的には、学習成果の発表会、地域への提案などを実施します。

しまの体験教育学習の様子。

2 看護学科 特別選抜「離島看護師特別枠」の創設

長崎県離島の基幹病院においては、看護師の確保が急務となっています。本学では、看護栄養学部 看護学科で推薦入試「離島看護師特別枠」を設けることにより、離島医療を担う人材確保に寄与します。

平成26年度の募集人数は2名で、長崎県病院企業団の離島の病院または壱岐市より修学資金の貸与を受け、卒業後は当該病院への勤務を確約できる者などの出願要件を定めています。

3 「入学者選抜方法」の見直し

平成27年度より本学への入学者選抜方法などを見直します。その主な内容は、(1)一般入試における大学入試センター試験教科利用方法および個別学力検査の変更、(2)AO入試の募集停止(経済学部)となっています。

4 「長崎を学ぶ」科目群の新設と、さらなる充実

確かな知識と豊かな人間性を育むために実施されている全学教育科目に、「長崎を学ぶ」科目群を新設しました。

現在は「長崎と文化」「長崎の歴史と今」「長崎と宗教」「シーボルトと長崎」の科目があります。長崎県立大学の学生として、より地域に貢献できるように、今後さらなる科目の充実を目指しています。

5 使える英語・中国語のために「外国語教育」を改革

近年は、世界のグローバル化が加速度的に進み、アジア近隣諸国の学生がよりいっそう力をつけ、日本の学生もさらなる努力が必要な時代となっています。そこで、本学では以下のような「外国語教育」の改革を実施し、平成25年度入学生から適用しています。

- 英語(中国語)の科目を19科目20単位配下し、すべての科目をスキルに特化した内容に改革。
- 向上心のある学生のために、プラスで単位を取得できるシステムを整備。
- TOEIC®・中国語検定の試験結果で一定レベルを獲得した学生に、最大6科目6単位の科目を認定。次なるステップを履修できる環境を整える。
- 国際交流学科の学生は、全科目(19科目20単位)が必修。他学科は8科目8単位が必修。

6 国際交流学科において「語学研修の必修化」を決定

語学に長け、将来は海外との懸け橋となれる人材の育成を目指し、平成25年度より、国際交流学科の「語学研修の必修化」を行いました。研修には、夏休み・春休みを利用し、3週間～1か月の期間、海外提携大学で言語(英語・中国語)や文化について学びます。教育費・宿泊費・海外保険料の一部は大学が支援します。

7 社会人としての基礎力を育む「PROG®(プログ)」テスト導入

今、大学教育を通した、ジェネリックスキル育成への期待が高まっています。ジェネリックスキルとは、社会人としての基礎力を指すもので、社会で求められる汎用的な能力や態度、志向などが含まれます。

学生が、社会に求められるジェネリックスキルを意識し、自分の現状を客観的に把握できるよう、本学では、平成25年に「PROG」テストを導入しました。テストを受けることで"気づき"が生まれ、大学での学びをより主体的に捉える原動力になることも期待しています。

※Progress Report On Generic skills

8 成績優秀入学者へ「奨学金」を交付します

優秀な学生の大学進学を促すとともに、奨学金を交付することで学業を奨励し、他学生の模範として大学の学力水準の向上に寄与することを目的としています。本学では、県内生※のうち、一般入試（前期日程）の成績が右の表に該当する学生に交付しています。

※入学生またはその配偶者もしくは一親等の血族が、入学年度の前年の4月1日から引き続き長崎県内に住所を有するものをいいます。

交付額 180,000円 入学時に1回のみ交付

経済学部	○経済学科 ○地域政策学科 ○流通・経営学科	各学科上位2名
国際情報学部	○国際交流学科 ○情報メディア学科	各学科上位1名
看護栄養学部	○看護学科 ○栄養健康学科	各学科上位1名

9 アジア・国際戦略に取り組む「学長プロジェクト」実施

長崎県の政策課題である「アジア・国際戦略」に取り組むことで地域貢献を果たす「学長プロジェクト」を行っています。

平成25年9月の5日間、プロジェクトのひとつ「日中間の人の交流とものの移動」をテーマに、中国上海市で「上海ゼミ」が行われました。参加人数は、学生56名、太田学長以下教職員17名の計73名です。ゼミのほか、上海外国語大学との学生交流、長崎県から上海へ進出している日本企業の視察などを行いました。

本学の教員や上海東華大学教授による講義、上海の学生との交流、意見交換会などが行われました。

長崎県から進出した秀工机械ほか、上海の企業を訪問しました。

10 学生が自分の将来を考える「キャリアポートフォリオ」導入

「キャリアポートフォリオ」とは、授業や学習活動の成果であるレポートや論文、サークルやボランティア活動の経験、日々考えていることなどを、記録・保管していくファイルです。「キャリアポートフォリオ」の作成過程を通して、学生は自分自身を振り返り、将来について考えるきっかけを持つことができます。

本学では、平成24年度入学生から、学生全員に「キャリアポートフォリオ」を配付。学生の記録に対して、教職員が指導・相談・助言を行うことで、学生の将来像を明確化し、卒業後の社会的・職業的自立につながる「就業力」を培っています。

本学のロゴマークが入ったファイルが学生全員に配付されます。

11 即戦力として認められる「資格取得」への対策強化

今、社会が大卒生に求める能力を養うために、学生の「資格取得」に学部をあげて組織的に取り組んでいます。その対策として、外部から専門家や講師を招き、各種資格取得の対策講座を開催しています。また、以下のようにそれぞれの学部・学科で具体的な合格人数の目標をあげています。

経済学部	[販売士検定2級] 10名以上 [FP技能検定2級] 7名以上
国際情報学部 情報メディア学科	[基本情報技術者試験] 3名以上

12 学生に情報を届ける「広報活動」を活発化

本学の情報を伝わりやすくし、さらに利用者にとっても使いやすくするために、平成25年、公式ホームページをリニューアルしました。また、平成24年には、大学案内パンフレットをリニューアルするとともに、大学広報誌「clover」を年2回発行し、長崎県内外の高校などへ配布しています。

○大学案内

○広報誌「clover（クローバー）」

「clover」というタイトルは、クローバーが本学のロゴマークと似ていることや、その昔、ものを守り包みこむ緩衝材になっていたことなどに由来します。学生からの公募にて決定しました。

○ホームページ　http://sun.ac.jp

13 長崎県の産業と県民の生活向上を支援する「長崎“新生”産学官金連携コンソーシアム」

長崎県の産学官金関係団体の連携を強化し、産学官金の研究開発などを推進する「長崎“新生”産学官金連携コンソーシアム」に、平成22年より参画しています。これにより、持続的・発展的にイノベーションを創出するシステムを構築し、科学技術による長崎県の産業の振興や県民の生活の向上に寄与しています。

14 平戸市との連携協定を締結

地域の特色を生かしたまちづくりを推進する平戸市と本学が、包括連携協定を結びました。

これにより、平戸市内の地域が学習・実践のフィールドとなり、学生たちには地域と密着した学びをより提供できるようになりました。平成26年度の実施以降は、本学の教育研究の質の向上とともに、より地域に根ざした人材の育成が期待できます。

具体的には、平戸市に暮らすみなさんへのアンケート調査、観光や特産品についての新提案など、行政による事業の一部に本学の学生が携わる予定です。

今年度の平戸市だけではなく、以前より佐世保市、長与町、新上五島町などと本学は連携協定を締結し、地域との連携を強化しています。今後も地域との連携を強化し、「地（知）の拠点」として、グローカルな視点から地域の課題解決に取り組んでいきます。

15 大学間連携共同教育推進事業「在宅医療・福祉の人材育成」への参画

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」は、平成24年度からスタートした本学・長崎大学・長崎国際大学との共同の取り組みです。3大学のほかにも、4自治体および12職能団体と連携した多職種協働の事業で、在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材の育成拠点を長崎県につくることを目的としています。在宅医療体制の整備が急務とされる今、学生に多職種協働の大切さを教え、在宅医療の分野で活躍できる人材を育成します。

16 大学間連携共同教育推進事業「長崎発グローバル人材育成」への参画

「留学生との共修・協働による長崎発グローバル人材基盤形成事業」は、平成24年度からスタートした文部科学省の大学間連携共同教育推進事業です。本学を含む県内8大学、2短期大学と共同で取り組んでいます。大学間の垣根を越え、日本人と留学生が混在するグループでの共修やインターンシップをカリキュラムに取り込み、よりグローバルな感覚を持った人材を育成しています。

OB・OG
訪問レポート

先輩たちから社会を学ぼう！

社会人となって日々、奮闘・活躍する先輩たち。
その頑張る姿勢から、目指す明日が見えてくる。

REPORT.01

川棚警察署 地域課 波佐見交番
近藤 清憲さん
経済学部 地域政策学科卒業

みなさんが困っていることを全力で解決します

波佐見交番で、波佐見町（長崎県東彼杵郡）内の治安の維持に努めています。長崎県は中国をはじめ外国との関わりが深く、外国の方が多いエリアです。交番を訪れる人の中には中国の方もいらっしゃるため、大学時代にインテンシブクラスで学んだ中国語が役に立っていると思います。

警察官を頼ってくる人のほとんどは困っている状況です。その原因の解決に努め、国民のみなさまに奉仕し、安心して日常生活を送っていただけるよう、今後とも全力で頑張ります。

生活リズムを守り、健康管理を徹底し、毎日の任務をまっとうしています。

●出身地／長崎県佐世保市　●趣味／アメリカンフットボール　●好きな食べもの／九十九島のカキでつくるカキフライ　●10年後は何をしている?／もちろん、今と変わらず警察官として、国家と国民に奉仕をしています。

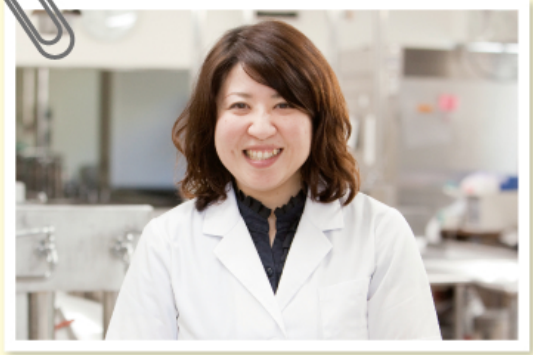
CHECK01 メモ帳
新人なので、分からないことは何でもメモしています。見返して、ミスがないようにしています。

CHECK02 正義感
正義感がなくては、警察官は務まりません。物事に取り組む時のすべてにおいて、正義感を持って行動します。

CHECK03 仕事への誇り
警察官は、小さい頃から追いかけてきた夢です。夢を実現することができ、仕事に誇りを持って、国家と国民に奉仕します。

CHECK04 同期生
きついけれど楽しかった警察学校で共に学んだ同期生は、一生付き合える仲間。良き相談相手で良きライバルです。

REPORT.02



長崎大学教育学部附属小学校
小濵 有里子さん
看護栄養学部 栄養健康学科卒業

子どもたちの「おいしかった！」の笑顔が、いちばんのよろこびです

栄養教諭の業務内容は、大きくふたつに分けられます。ひとつ目は「給食管理」で、給食の献立作成、食材の発注、衛生面の点検などを行います。ふたつ目は「食に関する指導」で、子どもたちへの食事マナーや栄養についての指導、配布物の作成などです。また、学校の一員として運動会などの行事運営にも参加します。

今後も、大学で学んだ栄養士としての基礎知識、そして先生方から教えてもらった人や仕事との関わり方を、仕事にいかして成長していきたいです。

楽しく、清潔で、正しい食事を身につけられるよう、給食時間に指導します。

●出身地／長崎県長崎市　●趣味／旅行・合唱・おいしいもの探し　●学生時代の定番スポット／学食（実験の待ち時間中のティータイム）　●学生時代の思い出／部屋でのカレーパーティ&鍋パーティ　●好きな食べもの／炊き立ての白いごはん

CHECK01 笑顔
つらい時こそ笑顔。自分が笑顔でいると、いつも支えてくださる周りの方々にも楽しい雰囲気になっていただけます。

CHECK02 情報収集のアンテナ
伝統的な食の知識はもちろん、新しい食の情報も伝えたい。「長崎おでん」「ちゃポリタン」は給食に登場済みです。

CHECK03 パソコン
献立表や給食だよりなどを作成する際の必需品です。もっと使いこなして、効率良く業務を進めたいと思っています。

CHECK04 工作セット
教材や掲示資料は画用紙や折り紙、筆、はさみを使って手づくりです。子どもたちの興味が湧くよう頑張っています。

NEWS LETTER
2013

**学生や高校生、地域のみなさんに向けて発信する
長崎県立大学からのお知らせです。**

LETTER.1

中国華僑大学と交流協定更新にかかる調印式を行いました

平成25年10月7日(月)～9日(水)、太田博道学長が中国華僑大学を訪問し、協定書の更新にかかる調印式を行いました。

10月9日(水)の調印式では、華僑大学の賈益民(カ エキミン)学長と20年以上続く両校の友好関係を称えあい、今後のさらなる交流の発展を推進することを約束しました。

また、太田学長は、調印式の前日である10月8日(火)に「我々は今、どこにいるのか?」と題した特別講演を行いました。会場の学生からは数多くの質問があり、予定時間を過ぎても質疑応答が行われるほど白熱し、中国の学生の熱気を肌で感じることができました。講演の最後に学長が紹介した長崎の風景に、華僑大学の学生たちは興味を持ってくれたようです。

今後、両校では、学生交流をはじめとするさまざまな交流が推進されます。

LETTER.2

第8回 日韓国際合同カンファレンスを開催しました

平成25年10月4日(金)、シーボルト校において「第8回日韓国際合同カンファレンス」が行われ、学内外から147名の参加がありました。

「第2回国際看護カンファレンス」として、本学で2回目の開催です。

基調講演1では、韓国・高麗大学校看護大学のギョンエ・ソムン博士が「What is Nursing Informatics?(看護情報学とは?)」をテーマに講演。基調講演2では、タイ国・タマサート大学のマンヤット・ルチウィット博士が「CQI: Drivers of Policy and Strategy in Nursing Management.(看護管理における方針と戦略)」と題して講演。学術発表では、大分大学医学部の井上亮教授が研究内容の発表をされ、本学からは看護栄養学部看護学科の大重育美准教授が発表を行いました。

LETTER.3

学術講演会・公開講座を開催しました

地域の皆様に生涯教育の振興に貢献することを目的として、5月～7月と11月～12月の間に本学の有する研究成果を広く公開する公開講座を、また、現代社会の諸問題について学習の機会を提供するため、学外より学術分野における著名な講師をお招きする学術講演会を10月～12月の間に開催しました。来年度も皆様のご来場を心よりお待ちしています。

LETTER.4

学園祭を開催しました

【鵬祭】

テーマ:「みんなつながる笑顔の輪」

平成25年11月9日(土)・10日(日)、経済学部(佐世保校)で開催されました。ステージではコンテストやライブが行われ、吹奏楽部やシーボルト校ダンス部の発表もありました。ラストを飾る打ち上げ花火が、華やかに秋の夜空を彩りました。

【SUN FESTA】

テーマ:「煌(きらめき)」

平成25年11月2日(土)・3日(日)、国際情報学部・看護栄養学部(シーボルト校)で開催されました。ステージではテコンドー部や軽音部などの発表が行われ、キャンパス内にはたくさんの出店がありました。フリーマーケットは、学生はもちろん地域の方にも人気の企画でした。

長崎県立大学

一般入試のお知らせ

合否は、大学入試センター試験と個別学力検査などの成績および、出願書類の内容を総合的に判定します。

●一般入試日程 **経済学部・国際情報学部・看護栄養学部**

出願期間 平成26年1月27日（月）～2月5日（水）

前期日程試験:平成26年2月25日（火）

- 合格発表日　平成26年3月5日（水）
- 入学手続期間　平成26年3月6日（木）～15日（土）

後期日程試験:平成26年3月12日（水）

- 合格発表日　平成26年3月21日（金）
- 入学手続期間　平成26年3月24日（月）～27日（木）

［募集人員］

区分＼学部・学科		経済学部			国際情報学部		看護栄養学部	
		経済	地域政策	流通・経営	国際交流	情報メディア	看護	栄養健康
前期日程		70	70	70	40	34	38	24
後期日程	Aコース※	8	8	8	7	7	6	6
	Bコース※	8	8	8				
	Cコース※	8	8	8				

［経済学部 後期日程］
※Aコースは「小論文」、Bコースは「英語」、Cコースは「数学」で、個別学力検査等を実施するものであり、出願時にコース選択を行う必要があります。

入学料

県内生 176,500円　入学生またはその配偶者もしくは一親等の血族が、入学年度の前年の4月1日から引き続き長崎県内に住所を有する者をいいます。

県外生 353,000円　上記以外の者をいいます。

授業料

年額 535,800円（前期267,900円／後期267,900円）諸納金（参考 平成25年度入学生に適用）

学　部	後援会費	同窓会費	学生自治会費	学生保険料	計
経済学部	50,000円	12,000円	33,000円	3,300円	98,300円
国際情報学部	50,000円	10,000円	29,500円	4,660円～	94,160円～
看護栄養学部	50,000円	10,000円	29,500円	4,660円～	94,160円～

※別途、実験・実習経費等が必要になることもあります。※国際交流学科は短期海外語学研修の費用が別途必要になります。

奨学金制度

日本学生支援機構・奨学金について
人物・学業ともに優れ、経済的理由により著しく修学が困難な者に貸与されます。

参考 平成25年度入学生の貸与月額

区分		第一種（無利子）	第二種（有利子）
学部生	自宅通学	30,000円　45,000円　2種類の金額から選択	30,000円 50,000円 80,000円 100,000円 120,000円 上記5種類の金額から選択
	自宅外通学	30,000円　51,000円　2種類の金額から選択	

※上記以外にも地方公共団体、財団法人などの奨学金制度があります。

授業料減免制度

学業成績が優秀でかつ家庭の経済事情（生活保護家庭等）または不測の災害などのため、授業料の納付が極めて困難な学生に対する授業料の減免制度があります。

成績優秀入学者奨学金

優秀な学生の大学進学を促すとともに、奨学金を交付することにより学業を奨励し、他の学生の模範として大学の学力水準の向上に寄与することを目的とする奨学金制度です。
県内生（入学料に準ずる）のうち、一般入試（前期日程）の成績が右表に該当する学生に対して交付します。

交付額／180,000円　入学時に1回のみ交付します。

学部（学科）	対象者
経済学部（経済学科、地域政策学科、流通・経営学科）	各学科上位2名
国際情報学部（国際交流学科、情報メディア学科）	各学科上位1名
看護栄養学部（看護学科、栄養健康学科）	各学科上位1名

長崎県立大学の入試に関する資料の取り寄せ方法はコチラ

「モバっちょ」で請求

大学情報センターの「モバっちょ」で請求できます。
http://djc-mb.jp/sun/
●「モバっちょ」では、資料請求料金をクレジットカード、または携帯電話の通話料金と一緒にお支いいただけますので、郵便局等に払い込みに行く必要がなく、安く請求できます。
●資料請求代金以外に、別途支払手数料等は必要ありません。（パケット通信料を除く）
●携帯電話の機種、携帯電話会社との契約状況によってご利用できない場合がございます。
●料金等の詳細については資料請求サイト「モバっちょ」でご確認ください。

「テレメール」で請求

インターネット（携帯電話・パソコン）または、自動音声対応電話をご利用ください。
http://telemail.jp　050-8601-0101
●一般電話回線からのIP電話への通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約11円です。
●資料請求番号、料金等はホームページで調べるか、テレメールカスタマーズセンターへお問い合わせください。
テレメールカスタマーズセンター
tel.050-8601-0102（受付時間9:30～18:00）

本学へ直接請求（郵送のみ）

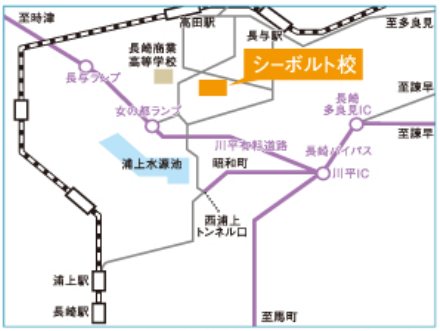
次の要領で、郵送にて請求してください。
●経済学部…佐世保校学生支援課学生グループへ。
●国際情報学部、看護栄養学部…シーボルト校学生支援課学生グループへ。
①返信用封筒（角型2号:縦332㎜×横240㎜）を用意する。
②返信用封筒には送料分の郵便切手を貼付し、受取人の郵便番号・住所・氏名を明記する。
※一般入試資料の送料は（募集要項のみ）210円、（募集要項+大学案内）290円です。
③大学への送付用封筒と郵便切手を準備し、送付用封筒の表に「○○○○募集要項および大学案内請求」と朱書で明記する。
④準備ができた返信用封筒を折りたたみ、送付用封筒に入れて、投函する。

今回の表紙

右:山口 菜々美（経済学部 流通・経営学科3年）吹奏楽部でクラリネットを担当しています。楽しいですよ。
下:中村 峻（国際情報学部 情報メディア学科4年）バドミントン部所属です。ふらっと体育館に遊びに来てください。
左:樋口 いくみ（看護栄養学部 看護学科4年）看護実習ではいろんな病院で学べます。夢である養護教諭の内定も頂きました!

長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI
http://sun.ac.jp/

佐世保校（経済学部）
〒858-8580 長崎県佐世保市川下町123
TEL0956-47-2191／FAX0956-47-6941



シーボルト校（国際情報学部/看護栄養学部）
〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1
TEL095-813-5500／FAX095-813-5220